

分かち合うことに喜びを

次男がダウン症、82歳の塚本洋子さん講演

猛が幼い頃、出勤する私の代わりに面倒を見ていた両親は、自宅近くの加茂幼稚園に猛をよく遊びに連れて行っていた。ある日、先生に「通園してみないか」と誘われた。当時は、重度の障害がある子どもが一般の幼稚園に通うなんて思いもしなかった。土日に列車で宝塚市の（療育センターの）やまびこ学園まで通っていたから、幼稚園に行けるのは本当に分かれなかった。

通園初日、園児たちは「怪物や」「逃げる」と声を上げながら駆け寄ってきた。猛を心配して見てみると顔中をよだれまみれにして満面の笑みだった。皆が寄って来てくれたこ



次男塚本猛さんとの日々を語る洋子さん＝三田市川除、市総合福祉保健センター

障害者週間（12月3～9日）に合わせた「障害者フェスティバル」が3日、三田市総合福祉保健センター（川除）で開かれた。ダウン症の次男猛さん（56）を育てた塚本洋子さん（82）＝加茂＝が「心豊かに生きること」と題して印象的なエピソードや取り巻く人たちの温かさを語り、参加した約150人の胸を打った。

（まとめ・尾仲由莉）

とがうれしかったんだと思う。

三輪小学校の養護学級にも通った。5年生になると自転車に乗れるようになった。猛は毎日家と田んぼの周りをぐるぐる回りながら、草引きをしている私を度々呼んだ。近くを通つたら人の子どもたちがその様子を見て「アホの塊や」とからかい、猛が家に入って出こなくなつてしまった。

「猛もさすがにこたえたのかな。心配になつて家を見に行こうとする」と、猛が牛乳の入ったガラスのコップ二つをトレイに載せて戻ってきた。牛乳がこぼれてトレイはびちゃびちゃ。「僕もお母さんも田んぼで

三田・障害者フェスティバル 子育て語り150人の胸打つ

猛が生まれた時、自分が生まれ育った土地を離れるべきかとまで考えた。気楽に心配なく暮らせる三田になっていることは、非常に素晴らしい。バリアフリーなどを経て、今は障害の有無にかかわらず手を取り合つて生きていくというユニバーサルマナーが言われている。何かを与えてではなく、お互いに分かち合うことに喜びを感じたら、心豊かに生きていけるのではないかなと思う。

今、猛は（障害者施設の）「三田わくわく村」に通い、公園やトイレを清掃している。そのせいか道端のごみも捨てるようになったが、周辺の店の前に置く癖が付いてしまつたらしく、わくわく村の職員から電話があり、店におむひに行つた。するとこんな言葉が返つてきた。「そんな構へん。塚本君が毎朝来てくれてシャッターを開けて、僕の1日が始まんねん。塚本君と毎日握手するの、楽しいんや」

今、猛は（障害者施設の）「三田わくわく村」に通い、公園やトイレを清掃している。そのせいか道端のごみも捨てるようになったが、周辺の店の前に置く癖が付いてしまつたらしく、わくわく村の職員から電話があり、店におむひに行つた。するとこんな言葉が返つてきた。「そんな構へん。塚本君が毎朝来てくれてシャッターを開けて、僕の1日が始まんねん。塚本君と毎日握手するの、楽しいんや」

暑いから、一緒に冷たい牛乳を飲もう。畑仕事で手が泥だらけの私のために、牛乳が多く残っている方のコップを片手に持ち、牛乳を飲ませてくれた。冷たい牛乳が喉を通ると、熱い涙が頬を伝った。それから3人の子どもたちは、二度とからかうことはなかった。

地域の人の温かさにも支えられてきた。猛は日頃一人でバスに乗る。乗り場が変わり、帰りの最終便に乗れなかったとき、神姫バスの職員が車で自宅近くのバス停まで送つてくれた。

上の記事を読んで下の問いに答えましょう。

1 傍線部「ダウン症」は、染色体の突然変異によって起こり、全般的に発達がゆっくりで、筋緊張の低下や合併症などの症状が見られます。通常、21番目の染色体が1本多くなつており、発生頻度は1000人に1人といわれています。

ダウン症の猛さんが成長する過程で、周りの人は猛さんによりのように接しましたか。本文から読み取って表を埋めましょう。またそれに対して、幼稚園と小学校での猛さんの反応はどんなものだったかを書きましよう。

2 障害がある人への教育として、インクルーシブ教育（障害のある子どもとない子供を一緒に教育する）、分離教育（障害のある子どもとない子供を分けて教育する）という考え方があります。それぞれの良い点よくない点を箇条書きで書きましよう。個に応じた教育、卒業後の生活、災害時などの視点を入れること。

1

幼稚園	先生	
	園児	猛さんは
小学校	小学生	猛さんは
地域	バス会社職員	
	店の人	

2

	よい点	よくない点
インクルーシブ教育		
分離教育		

1

幼稚園	先生 通園するように誘った	猛さんは 顔中をよだれまみれにして満面の笑みだった。
	園児 「怪獣や」「逃げろ」と声を上げながら駆け寄ってきた。	
小学校	小学生 「アホの塊や」とからかった。	猛さんは 家に入って、お母さんと自分のために冷たい牛乳をコップに入れてきた。
地域	バス会社職員 猛さんが帰りのバスの最終便に乗れなかったとき、車で自宅近くのバス停まで送ってくれた。	
	店の人 猛さんが毎朝来てくれて、握手するのが楽しい。	

2

	よい点	よくない点
インクルーシブ教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害についての理解が深まり、思いやりの心が育つ。 ・ 障害者の社会参加がしやすくなる。 ・ 地域の学校に通うことができる。など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の進度を合わせるのが難しい。 ・ 設備投資がかかる。 ・ 教員の負担が大きくなる。 ・ いじめなどの可能性がある。など
分離教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人に合ったきめ細かい指導ができる。 ・ 安全、安心な環境で教育が受けられる。など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業後、地域で生活するときに、つながりが無い。 ・ 障害についての理解が深まらない。 ・ 災害などで避難する時、どのような障害があり、どんな支援が必要か、地域の人分からない。など